

# ジェットパルス (JET PULSE) 液肥定量注入ポンプ

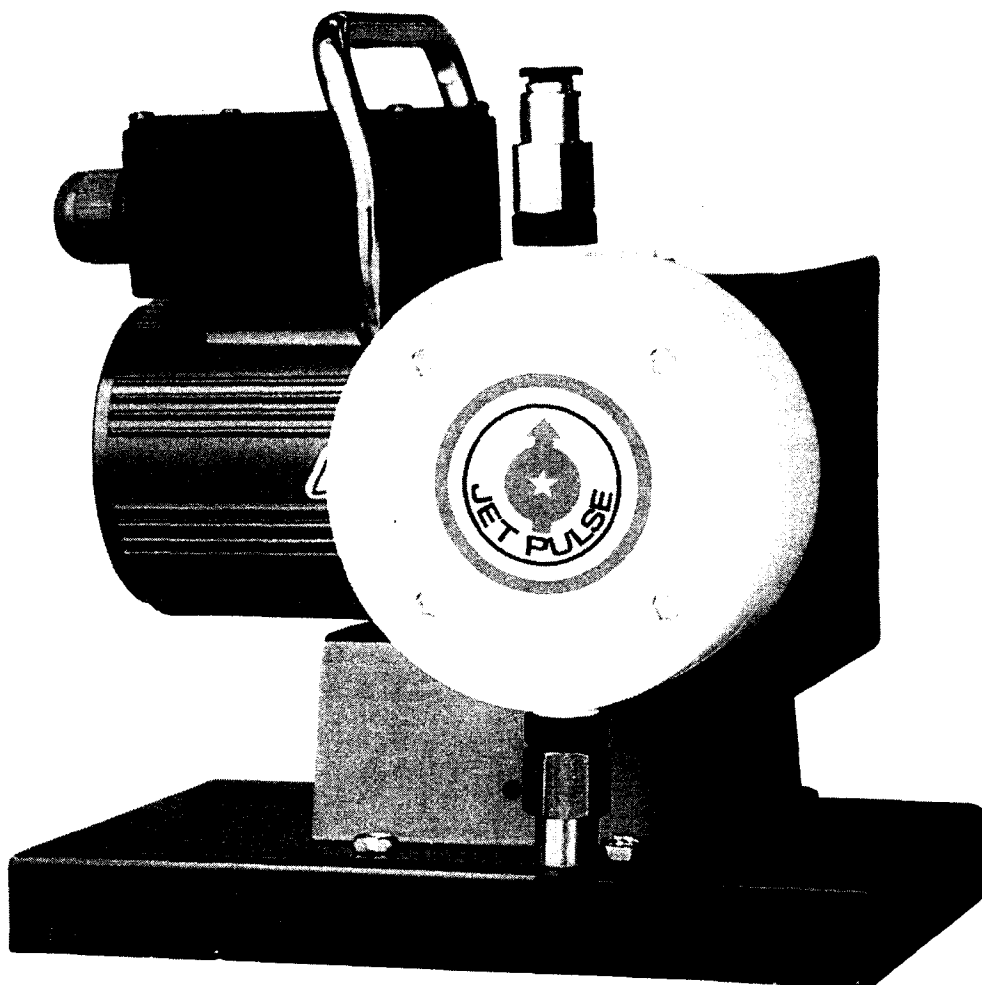
## 取扱説明書

このたびは、ジェットパルスをお買上げいただきありがとうございます。

ジェットパルスは小型定量注入ポンプで、希望する一定量を本管に注入する機能をもっています。

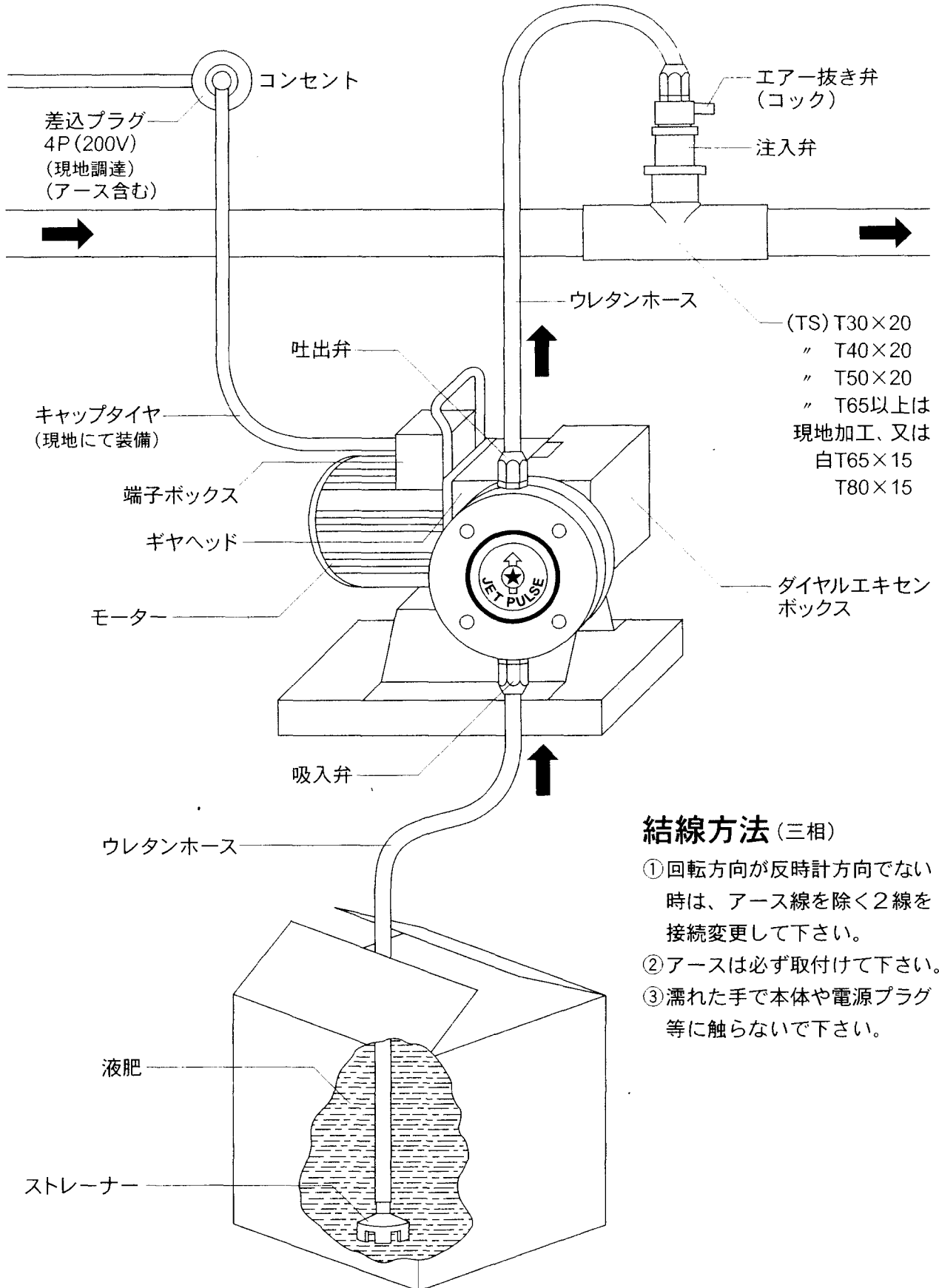
しかも、可能な限り、小型軽量のモーターで最大限の注入量を目指して、農業用液肥注入に最適の性能、効率を追求して完成させたものであります。

本機の据付、及び取扱い上の注意を必ずご一読の上、正しい使用法で末長くご愛用下さるようお願いいたします。



# ◆ 取付例

(モデル200T)



## 結線方法 (三相)

- ① 回転方向が反時計方向でない時は、アース線を除く2線を接続変更して下さい。
- ② アースは必ず取付けて下さい。
- ③ 濡れた手で本体や電源プラグ等に触らないで下さい。

## ◆ 取付説明書

- ① 取付け例の通り、本機を液肥の容器より高いところに設置して下さい。  
(高さ1 m位)
- ② 電気の配線が終わったら、ホースを吸入と吐出の長さを計って切り、それぞれの継手に取付けますが、本機の下の方が吸入で、上の方が吐出ですから間違いのないように取付けて下さい。
- ③ 本管が塩ビ管の場合は、20%から50%の径違いチーズの20の方に注入弁を接着剤で押し込んで取付けます。(チーズは上向きで施工)  
(T40×20、T50×20、65A以上は現地加工)  
同じく塩ビ管の継手で水栓ソケットへネジ込みでの使用も取付け出来ます。  
本管が鋼管の場合は白チーズ2 1/2、3の径違いチーズ1/2を使い、ネジ込んで取付けます。
- ④ 蝶ボルトをゆるめ、ダイヤルのメモリを希望する赤い印に合わせたらきっちりしめつけて下さい。
- ⑤ 電気を通してモーターが回転したら(反時計方向を確認)エア抜き弁を左へ廻して、エアが抜けてから右へきっちりしめて下さい。
- ⑥ 液肥がなくなったあと、長時間の空回転は、さけて下さい。

### 使用注意事項 (厳守)

- ① 注入弁からエア抜き弁をはずさないで下さい。これをはずすと注入弁の中のスプリング・ステンボール・バルブシートが本管の水圧で抜け出します。
- ② 使用後は必ず清水にて洗浄して下さい。各弁が詰まる原因となります。
- ③ 冬期間使わない時は、ストレーナーを引き揚げてウレタンホース内の水がなくなるまで空回転して下さい。(凍結防止の為)
- ④ ポンプヘッド及びポンプケースが溶解する恐れがありますので、酸性薬品(木酢等)は使用できません。
- ⑤ モーターは長時間の使用で高温になる場合があります。直接モーターには触れないようにして下さい。

## ◆各弁の取付説明書〈1〉

### ① ホースの脱着

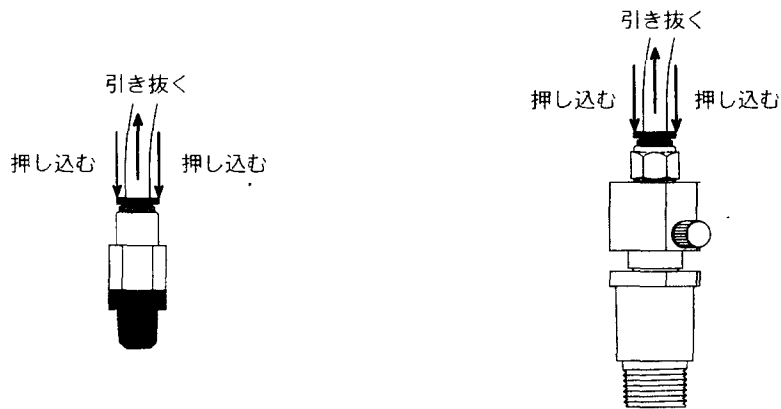
#### • ホースの取付け

コネクターに真っ直ぐに押し込んで下さい。

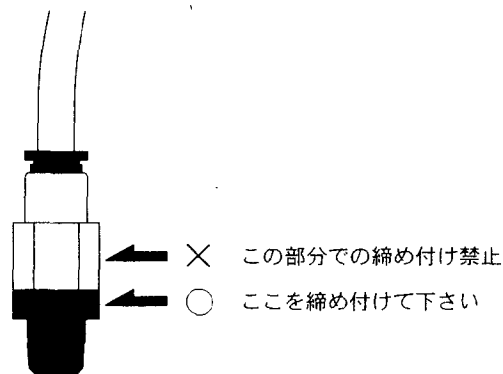
#### • ホースの取外し

コネクターを押し込みながらホースを引き抜いて下さい。

周囲がゴミ付着等で外しにくい時は、水洗いか潤滑スプレーを吹き付けて脱着して下さい。



### ② 吸入弁・吐出弁のポンプヘッドへの取付け



## ◆各弁の取付説明書〈2〉

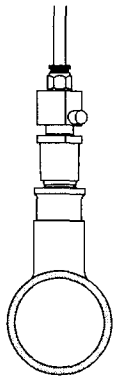
### ③ 注入弁の本管への取付け位置

注入弁を本管へ取付ける場合、本管の上側へ垂直に取付けて下さい。

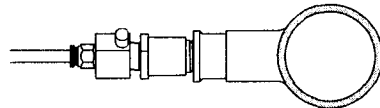
本管の横側または下側へ取付けると本管より逆流する場合があります。



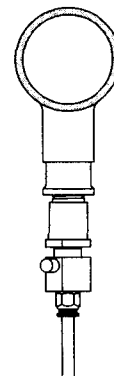
本管の上側へ垂直に取付け



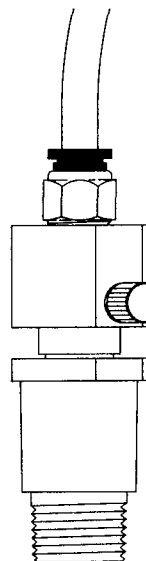
本管の横側への取付け



本管の真下への取付け



### ④ 注入弁の本管への取付け



× この部分での締め付け禁止

○ ここを締め付けて下さい

## ◆ 使用法 〈1〉

- ① ダイヤルのメモリは0～10まであります。蝶ボルトをゆるめ、ダイヤルのメモリを希望する赤い印に合わせたら、きっちり締め付けて下さい。
- ② 60Hz地区では10のメモリで1000cc、8で800cc、6で600cc……の液肥が注入します。(モデル25W) 右表参照。

50Hz地区ではその下の注入量になります。

- ③ 希釈液をきめたい場合、例えば、ポンプからの吐出量（灌水量）が150ℓ/分の時、500倍の希釈液を注入したいとすれば、

$$150 \text{ ℓ/分} \times \frac{1}{500} = 300 \text{ cc/分}$$

ですから300cc、つまり3のメモリに合わせます。(60Hz)

しかし、散水量（灌水量）は、各ほ場の土壌・土質によってもそれぞれ違うわけで、希釈倍率よりもむしろ、単位面積当り（反当りまたは坪当り）の作物の種類及び生育状況により施肥量を設定する方式を、大多数の方が利用されています。

〈参考〉

- 液肥注入量cc/分 = 吐出量ℓ/分 ×  $\frac{1}{\text{液肥希釈倍率}}$

- 施肥量ℓ = 液肥注入量cc/分 × 時間

## ◆ 使用法 <2>

### 注入希釈倍率基準表

50Hz <モデル25W> (単位：倍)

ダイヤルメモリ		10	8	6	4	2	0
液肥注入量cc/分		900 <sub>833</sub>	700 <sub>667</sub>	500 <sub>✓</sub>	300 <sub>333</sub>	150 <sub>167</sub>	0
灌水量	100 ℓ/分	110	145	200	335	665	0
	120 ℓ/分	135	170	240	400	800	0
	150 ℓ/分	165	215	300	500	1,000	0
	180 ℓ/分	200	255	360	600	1,200	0
	200 ℓ/分	220	285	400	665	1,335	0

50Hz <モデル40W>

ダイヤルメモリ		10	8	6	4	2	1
液肥注入量cc/分		1,400 <sub>✓</sub>	1,200 <sub>✓</sub>	1,000 <sub>✓</sub>	800 <sub>✓</sub>	600 <sub>✓</sub>	500 <sub>✓</sub>
灌水量	100 ℓ/分	70	85	100	125	165	200
	120 ℓ/分	85	100	120	150	200	240
	150 ℓ/分	105	125	150	190	250	300
	180 ℓ/分	130	150	180	225	300	360
	200 ℓ/分	145	165	200	250	335	400

60Hz <モデル25W>

ダイヤルメモリ		10	8	6	4	2	0
液肥注入量cc/分		1,000	800	600	400	200	0
灌水量	100 ℓ/分	100	125	165	250	500	0
	120 ℓ/分	120	150	200	300	600	0
	150 ℓ/分	150	190	250	375	750	0
	180 ℓ/分	180	225	300	450	900	0
	200 ℓ/分	200	250	335	500	1,000	0

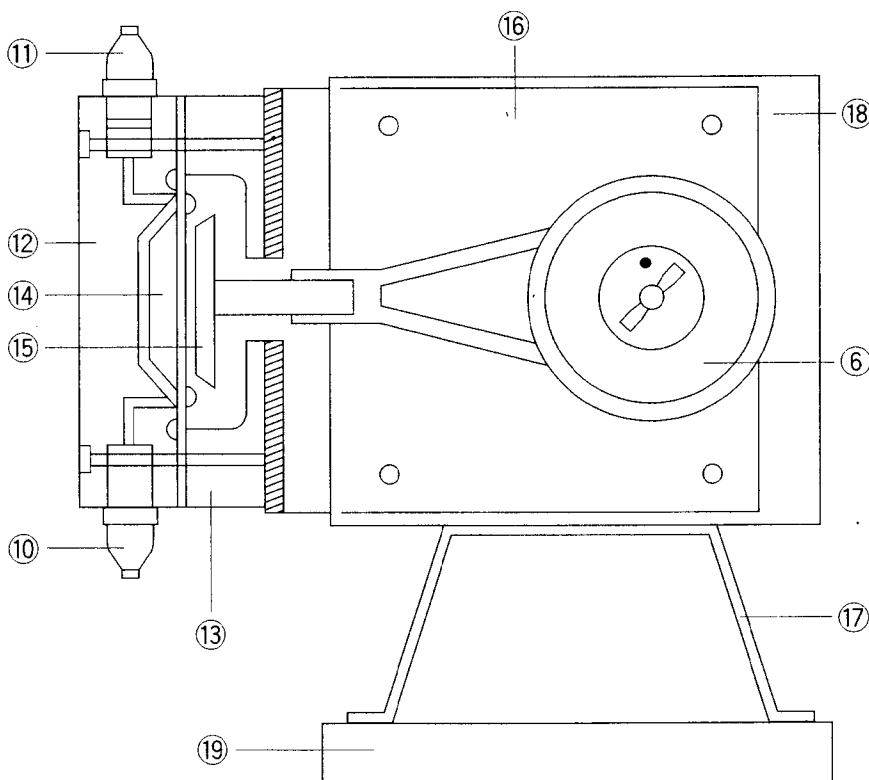
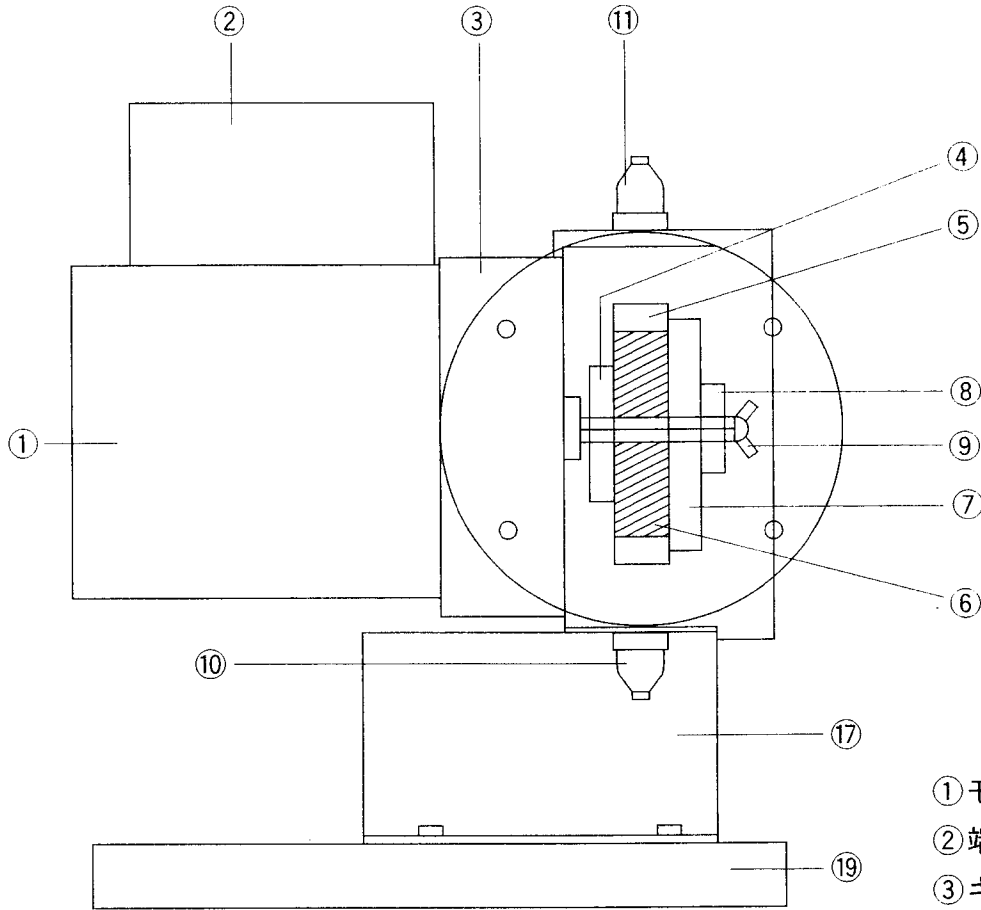
60Hz <モデル40W>

ダイヤルメモリ		10	8	6	4	2	1
液肥注入量cc/分		1,680	1,440	1,200	960	720	600
灌水量	100 ℓ/分	60	70	85	105	140	165
	120 ℓ/分	70	85	100	125	165	200
	150 ℓ/分	90	105	125	155	210	250
	180 ℓ/分	105	125	150	190	250	300
	200 ℓ/分	120	140	165	210	280	335

※参考数値です。

# ◆ 構造図及び部品名

(モデル200T)

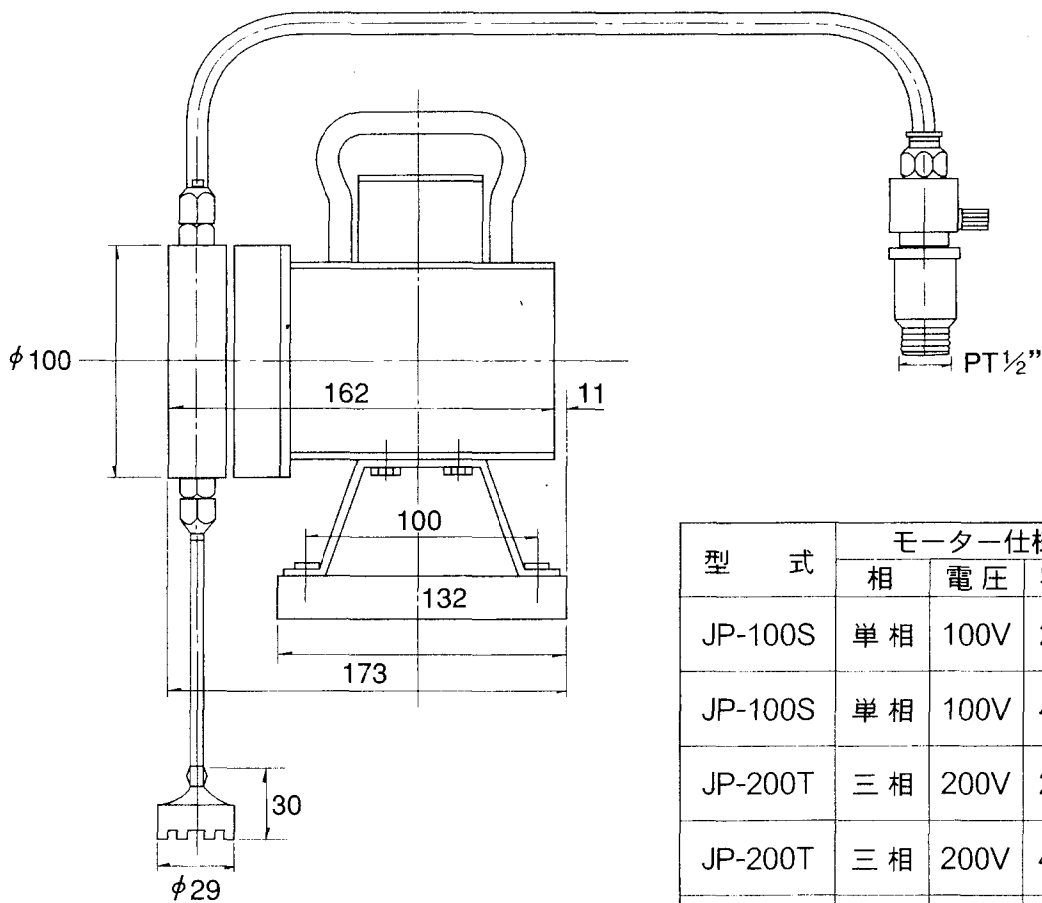
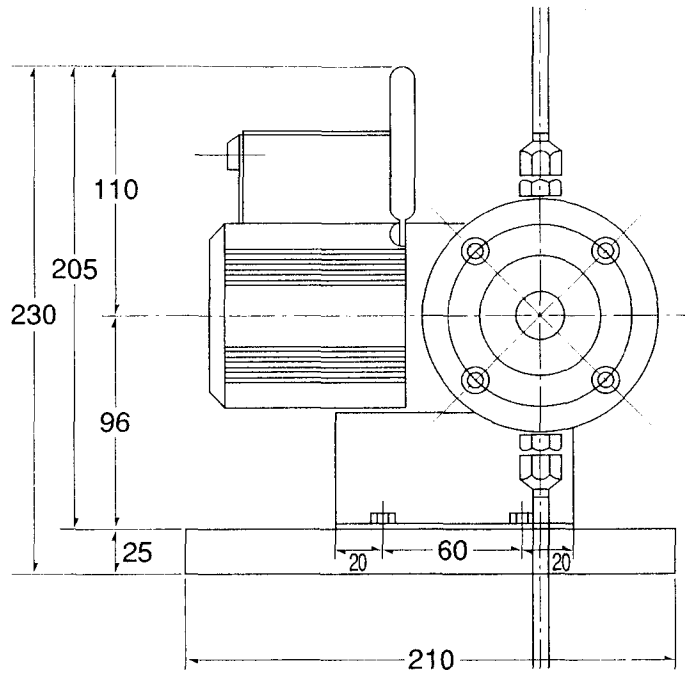


- ① モーター
- ② 端子ボックス
- ③ ギヤヘッド
- ④ モーターエキセン
- ⑤ ロッド
- ⑥ ベアリング
- ⑦ ダイヤルエキセン
- ⑧ モーター締付座金
- ⑨ 蝶ボルト
- ⑩ 吸入弁
- ⑪ 吐出弁
- ⑫ ポンプヘッド
- ⑬ ポンプケーシング
- ⑭ ダイヤフラム
- ⑮ ダイヤフラム押え
- ⑯ 取付台
- ⑰ 取付台脚
- ⑱ アクリルカバー  
(ダイヤルエキセンボックス)
- ⑲ 台板



# ◆仕様

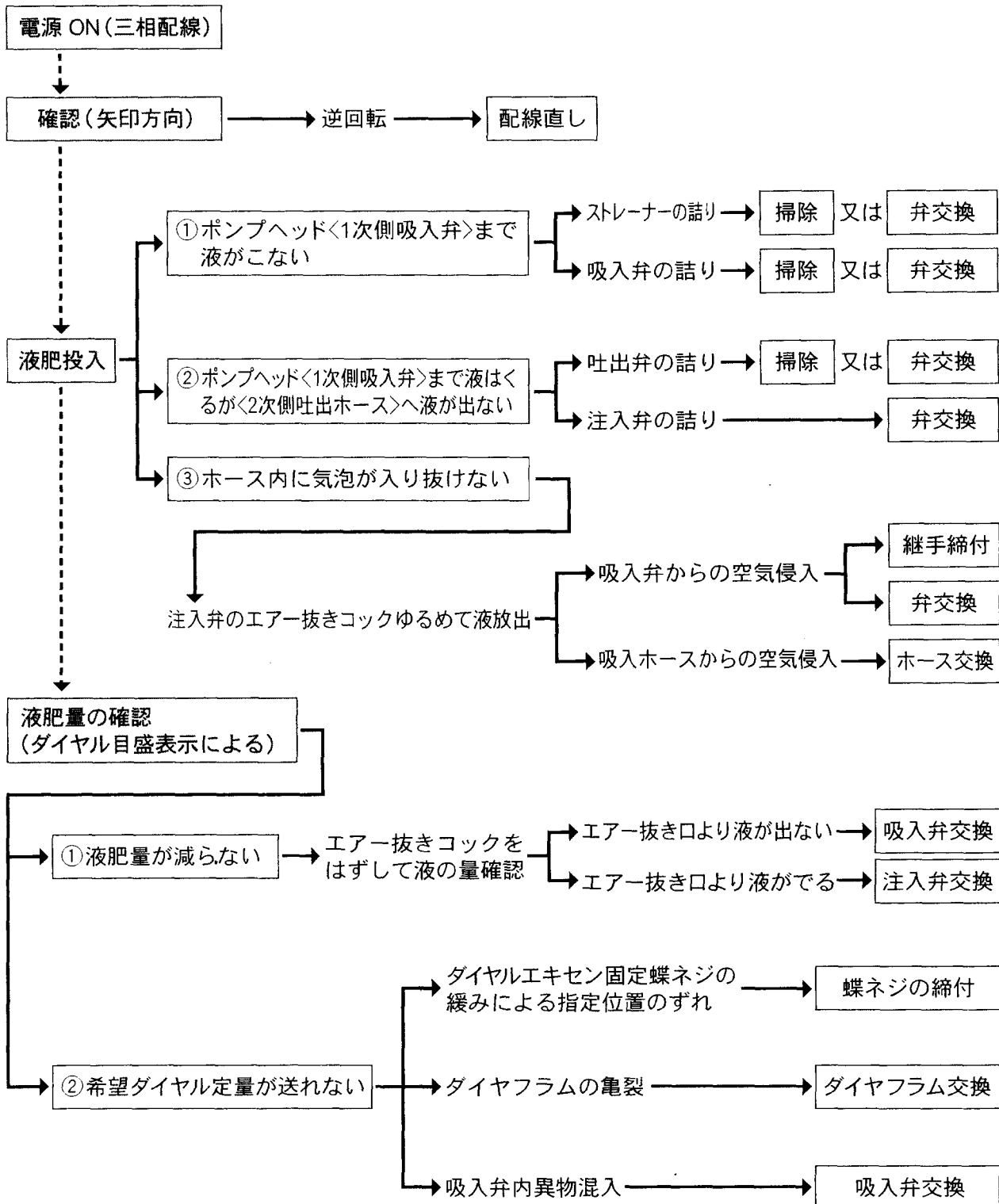
(モデル200T)



型 式	モーター仕様			重 量
	相	電 圧	容 量	
JP-100S	単相	100V	25W	4.4kg
JP-100S	単相	100V	40W	5.6kg
JP-200T	三相	200V	25W	4.2kg
JP-200T	三相	200V	40W	5.4kg
JP-12DC	直流	12V		4.0kg

# ◆ 故障診断シート

(モデル200T)



## 注意事項

- ① 使用後は、必ず水及びぬるま湯(バケツ1杯分位)にて本体内の清掃を行って下さい。怠りますと、各々弁等の故障原因となります。
- ② 長期間ご使用ならない時は、本体内の液を(5秒位、空運転にて)放出して下さい。